

平成十年度 帯広市

文化賞
文化奨励賞

帯広市教育委員会

帯広市文化賞受賞者紹介

うえ の
上 野 サ ダ



(77歳)

《受賞理由》

氏は、昭和32年（1957年）設立された「カムイトウ・ウポポ保存会」の基礎を築かれました。その後、40年にわたり同保存会の中核となって活動し、アイヌ古式舞踊の保存と伝承に務められるとともに、歌い手の指導者として後継者の育成に務めてこられました。特に、十勝アイヌだけに伝わる「バツタキウポポ」など独自の古式舞踊や、「イフンケ（子守唄）」などを復活させ、指導普及に務めてこられました。

中でも、アイヌ語及び儀礼の作法については、数少ない貴重な女性伝承者の一人となっております。

一方、アイヌの生活文化についても、広い知識を持っておられます。アイヌ民族衣装については、独学で製作方法を学び、普及させるなど、アイヌ伝統文化の保存継承に貢献されました。

さらに、アイヌ料理、特にオオウバユリの採集と調理法、澱粉団子（ムニニモシトなど）づくりについての知識の伝承にも努めてこられました。

このような氏の長年にわたる活動は、地域文化の向上発展に大きく寄与するものであることから、帯広市文化賞を贈り顕彰するにふさわしいものであります。

《略 歴》

大正10年	帯広町（現在の帯広市）伏古コタンに生まれる
昭和3年	第二伏古尋常小学校（日新尋常小学校）に入学
昭和6年	第二伏古尋常小学校の廃校に伴い帯広小学校に転入
昭和7年	帯広小学校卒業
昭和19年	結婚
平成10年	第2回アイヌ文化奨励賞（財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構）受賞

帯広市文化賞受賞者紹介

こ ひや ま たつ お
小 檜 山 奮 男



(71歳)

《受賞理由》

氏は、長い教職生活を通じて文学にかかわってこられました。ロシア文学、特に児童文学における造詣は深く、日本でも有数の活躍をしてこられました。

ロシア語も堪能で、訳書、共訳書も多数出版されております。また、児童誌に関する編纂者、著者としても活躍してこれらました。特に、昭和38年(1963年)から設けられている「サイロ」の読み物ページに、翻訳した児童文学作品、民話などを発表してこられました。

また、市民文芸、とかぶち児童文学研究会、十勝こどもの本連絡会、十勝こどもの本フェスティバル実行委員会、帯広異言語文化の会など広く児童文学に関わる活動に中核的存在として活躍してこられました。

このような氏の長年にわたる活動は、地域文化の向上発展に大きく寄与するものであることから、帯広市文化賞を贈り顕彰するにふさわしいものであります。

《略歴》

- 昭和2年 福島県喜多方市に生まれる
- 昭和38年 「サイロ」に翻訳童話・民話の紹介を始める
- 昭和44年 市民文芸編集委員(昭和55年まで)
- 昭和58年 とかぶち児童文学研究会代表
十勝子どもの本連絡会代表
- 昭和60年 北海道子どもの本連絡会代表(平成6年まで)
- 昭和63年 十勝子どもの本フェスティバル実行委員長(平成8年まで)
- 平成2年 帯広異言語文化の会会長

帯広市文化奨励賞受賞者紹介



もく ちょう かい

かつらぎ木彫会

昭和43年4月1日設立 (30年)

《受賞理由》

昭和43年(1968年)木彫愛好家の女性5名で結成された「かつらぎ木彫会」は、30年を経た現在300名を越える会員を擁するまでになりました。帯広市での活動はいうに及ばず、十勝6町村にも教室を開き普及に努めておられます。木彫の範囲も、手鏡などの小物から家具まで幅広く、趣味と実益を兼ねるとともに、その技術の向上発展に務めてこられました。

また、会だけの活動にとどまらず、帯広市成人学級や道新文化センターの「木彫講座」、更には、芽室町立養護老人ホームや十勝療養所入所者のリハビリテーションのため講師を派遣するなど、木彫文化の向上発展に幅広く活動してこられました。

このような会の長年にわたる活動は、地域文化の向上発展に寄与するとともに、今後の活動も大きく期待できるものであるために、帯広市文化奨励賞を贈り顕彰するにふさわしいものであります。

《略 歴》

- 昭和43年 かつらぎ木彫会設立
- 昭和45年 市民文化祭作品展開催
- 昭和47年 帯広市市政施行40周年記念芸術祭参加
- 昭和53年 かつらぎ木彫会設立10周年記念作品展開催
- 昭和55年 道新文化センターの「木彫講座」に講師派遣
- 昭和56年 芽室町立養護老人ホームリハビリ講座開設
- 平成元年 帯広市民劇場賞受賞